

図書館ホームページ

図書館ホームページURL

図書館公式X(旧ツイッター)アカウント

<https://www.kawaguchi-lib.jp>

@kawaguchi_lib



図書館公式X(旧ツイッター)

わたしの今年の一冊 2023

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をご紹介頂く「わたしの今年の一冊」は、今回で28回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で21点掲載させていただきます。

『夜に星を放つ』

窪美澄/著 文藝春秋 2022年刊 913.6

素晴らしかったです。電車のなかで読んでいて、思わずホロッと泣いてしまいました。

大事な人に会いたくても会えないとか、ひたすら孤独を感じたりとか、どうにもならない想いとか、他人の静かな優しさや、子どもが家族に気を遣う健気な姿に、心を揺さぶられて涙がでます。

どの物語も、希望がキラキラ輝く結末ではなくて現実的で、でもなんとか先に進んでいこうとする雰囲気を感じました。

眩しくてワクワクのハッピーエンドだけが元気をくれるわけではないのだ、ということを改めて思いました。(30代)

『TRUE Colors』

小林深雪ほか/著 講談社 2023年刊 K913.68

社会の多様性が問われる今、思春期の子供たちの日常生活の様子、心の葛藤が書かれておりました。自分の子供の頃には、こんなことあったかしら？と思い返すこともあり、いろいろ考えさせられました。中高生の本ですが、大人も是非、読んでみて下さい。(50代)

『87歳、古い団地で愉しむひとりの暮らし』

多良美智子/著 すばる舎 2022年刊 590.4

これからの年月をどう生きていこうかを探りながら、私が60歳から61歳にかけて、手にした本の一つです。「こういう心根でいられれば、ひがみっぽくならず、気持ちよく生きていけるね」と、読んでる私もなんだか心が落ち着きました。(60代)

『行きつ戻りつ死ぬまで思案中』

垣谷美雨/著 双葉社 2023年刊 914.6

『老後の資金がありません』の垣谷さんの初エッセイ。「骨の髄まで染み込んだ節約の癖がどうやっても抜けない」という彼女に、苦笑いの共感。「若い頃はお金が足りないし、中年期は時間が足りない」とのくだりに今の私がつけ加えるとすれば、老年期は
気力・体力が足りません！(70代)

『両手にトカレフ』

ブレイディみかこ/著 ポプラ社 2022年刊 913.6

英国の貧困家庭で暮らす14歳のミアは8歳の弟チャーリーを守るのに必死だ。母は薬物中毒者で保護されれば、同じ施設に入れる見込みはない。偶然手にしたカネコフミコの本と周囲の人達によって少しずつ救われてゆく様子が、スピード感にあふれ、ミアと同化して心を絞めつけられながらの一气読み。(60代)

『照子と瑠衣』

井上荒野/著 祥伝社 2023年刊 913.6

貴女は思うように生きられていますか？

日常を捨て2人で生きて行こうと決めた70歳の2人。大切な友の為とはいえ、自分にその決断が出来るのか？他人の別荘の不法侵入等やることは破天荒で驚かされますが、パワフルで痛快です。70歳といえども「守り」の生活に入ってしまうそうですが、その気さえあればまだまだいくらでも「変える」ことが出来る。そんな勇気をもらった1冊です。(50代)

『百年の藍』

増山実/著 小学館 2023年刊 913.6

1923年大正12年関東大震災の混乱の中で、主人公は見たこともないジーンズの“青(藍)”に魅せられ、故郷の繊維の街児島(岡山県)で作りたいという夢を持つ。震災時に助けた少女は、その夢を生涯応援する。児島の子供たちにも夢を語り、この話を聞いた子供がのちに児島でのジーンズ製作のために奔走する。夢が繋がっていく物語はうれしくなる。

最終章では100年越しの繋がりに驚かされる。(60代)

『分岐駅まほろし』

清水晴木/著 実業之日本社 2022年刊 913.6

電車に乗ってある地点を過ぎると戻りたい過去に行けるといふ。もちろん無条件ではない。しかも過去に戻っても今いる現実是不変する。でも戻りたい過去に行った人たちは確かに違う現実を生きることになる。それは視点が変わったからだとこの物語は教えてくれる。人は自分の考え方次第で自分の人生を変えていく力があるのだ。(60代)

『されど愛しきお妻様』

鈴木大介/著 講談社 2018年刊 916

鈴木さんの奥様への愛とユーモアに溢れた語り口が良いです。「何故出来ない」のか「何故分かってくれないのか」考えて細かく細かく分析してやってもらったら奥様が出来ようになったのは<愛>なんだと思います。(30代)

『永遠と横道世之介 上・下』

吉田修一/著 毎日新聞出版 2023年刊 913.6

「横道世之介」シリーズこれで完結。人生で一番大事なことはリラックスすること。肩肘張らない世之介の生き方は、なかなか真似できないからこそ、眩しく感じました。永遠に心に残る作品です。(50代)

『断片的なものの社会学』

岸政彦/著 朝日出版社 2015年 914.6

著者は社会学者で主に生活史のききとりをし、それを「社会学」という学問の範囲におさまるよう分析している。この本はその範囲の“外側”にある断片的な語り、人生を集めた本である。一般化、全体化できない言葉や瞬間にこそ人の人生が表れる。日々出会う人生のひとかけらを大切にすくいとろうとする著者の姿勢は人間として美しく、希望を感じるものだった。(30代)

『自転しながら公転する』

山本文緒/著 新潮社 2020年刊 913.6

母の看病のために実家に戻ってきた32歳の都の日常を描いた作品。「何かに拘れば拘るほど、人は心が狭くなっていく。」「正しいことだけを言う人間は、自分のことを完璧に整合性のとれてる存在だと思いがっている。」とつぶやく都に共感しきりだった。(70代)

『なれのはて』

加藤シゲアキ/著 講談社 2023年刊 913.6

こんなにも熱を感じる本に初めて出会いました。一枚の絵をめぐる“ミステリー”でありながら、仕事・家族・戦争…様々なテーマで話が展開します。しかし最後にはすべてが一つに繋がり、読後熱いモノが胸に込み上げます。読みながら登場人物に思いを馳せ泣き、読み終わって自分にとっての生きる意味を考えまた泣きました。今の時代を生きる多くの人に読んでほしい一冊です。(30代)

『ここが終の住処かもね』

久田恵/著 潮出版社 2022年刊 913.6

そんなところがあつたら、自分も移住を検討してみたい、と思わせるような、「サ高住」の設定です。我々シニアには、思わず興味をそそられます。でも、ないだろうなあ…謎解きみたいなロマンチックな展開もあり、一気に読んでしまいました。(70代)

『水車小屋のネネ』

津村記久子/著 毎日新聞出版

2023年刊 913.6

こんなにも登場人物達の幸せを祈りながら読んだ本があっただろうか。18歳と8歳で家を出た姉妹の40年間のお話。周囲の小さな親切に支えられ、そして支える。その中でとてつもない存在感を放つヨウムの子。とても愛おしく読んでいくうちに自分の肩にもネネが乗って歌をうたってくれているような錯覚に陥る。津村記久子のお話はいつも優しい。その優しさは例えば風邪を引いた時に強い抗生物質をくれるのではなく、のど飴(なぜかめっちゃ効く)をそっと置いておいてくれるような…そんな優しさだ。何年先も私の本棚にはこの本が並んでいるに違いない。(40代)

『ワンダー』

R.J.パラシオ/作 中井はるの/訳

ほるぶ出版 2015年刊 K933.7

主人公の男の子は容姿が多くの人とは異なります。目・鼻・口が多くの人とは違う位置についており、会えば逃げられるし、嫌な顔をされます。ただ読者はすんなり主人公の世界に入ることができます。なぜなら主人公は普通の男の子だから。映像のない小説だから、なおさら見た目ではなく中身から読者は主人公を知っていきます。ハロウィンの日、男の子は仮装をして学校へ行きます。男の子にとっては多くの人と同じになれる楽しい日です。そこで待っていた出来事とその後の男の子の行動には、私も胸を打たれました。見た目という誰しも持っている判断材料に疑問を投げかける一冊です。大人に読んでいただきたい児童書です。(40代)

『さみしい夜にはペンを持て』

古賀史健/著 ならの/絵 ポプラ社

2023年刊 159.7

「書く」ことを通して自分の心と向き合う方法を教えてくれる本。中高生向けの内容ではあるが、大人が読んでも面白い。自分の感情・思考をきちんと言葉にできることが自分らしくいられる第一歩なのだと思う。周りに流されやすい人は必読。(40代)

『成瀬は天下を取りに行く』

宮島未奈/著 新潮社 2023年刊 913.6

主人公成瀬の行動力のスゴさに舌を巻く。その行動力によって周りも刺激される。彼女から目が離せられないとてもユニークで楽しく、辛い場面などない、安心して読める。元気が出る、もらえる素敵な本です。(50代)

『ラウリ・クースクを探して』

宮内悠介/著 朝日新聞出版 2023年刊 913.6

エストニアで1977年に生まれたラウリを探すロシア人記者。ソ連崩壊に伴い1991年に独立回復した時代背景に青春を生きた仲間達が現在のラウリに会えるのか？ロシアとウクライナの戦争が終わらない中、作中人物が語る「国と国民のデータさえあれば、いつでも、どこからでも国は再興できる～わたしたちは情報空間に不死を作る」の言葉が胸にささる。(60代)

『黒い海』

伊澤理江/著 講談社 2022年刊 557.8

2008年千葉県犬吠埼沖合で中型漁船が転覆沈没し多くの命を失った海難事故の原因究明に迫ったノンフィクション。国の不可解な調査報告書。小説は、沈没原因にある仮説を立て検証するが、国が何かを隠そうとする機密保持の姿勢が見え隠れし、真相究明は混迷を深める。読み終えた後には正義に生きる世の多くの人の人生が否定されたようないたたまれない世の理不尽が心に刻まれる。そして、何かが違う道理に合わない事がまかり通る世の中であってはならない事を痛感する。(70代)

『黒い糸』

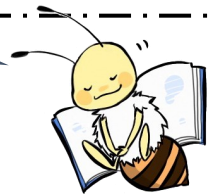
染井為人/著 KADOKAWA 2023年刊 913.6

人格は遺伝するのか、環境で育まれるのかという話を絡めながらのミステリーです。宗教・過酷な学校現場等の社会問題も描かれていて興味深いです。最後まで犯人がわからず、一気に読みました。(50代)

このほか、

- 『正欲』朝井リョウ/著 ●『わたしたちに翼はいらない』寺地はるな/著 ●『さよなら、田中さん』鈴木るりか/著
- 『人生がクソゲーだと思ったら読む本』犯罪学教室のかなえ先生/著 ●『リラの花咲くけものみち』藤岡陽子/著
- 『トム・ジョウズ』ヘンリ・フィールディング/著 ●『とわの庭』小川糸/著 ●『ザイム真理教』森永卓郎/著
- 『コーヒーと随筆』庄野雄治/編 ●『魔法のカクテル』ミヒヤエル・エンデ/作 ●『怪物に会った日』森合正範/著
- 『烏の緑羽』阿部智里/著 ●『出会いの痕跡』末盛千枝子/著 ●『荒野』桜庭一樹/著
- 『争いの樹の下で』丸山健二/著 ●『街とその不確かな壁』村上春樹/著 ●『晴れたらいいね』藤岡陽子/著
- 『残業禁止』荒木源/著 ●『この世の喜びよ』井戸川射子/著 ●『終末のフール』伊坂幸太郎/著
- 『救命センター カンファレンス・ノート』浜辺祐一/著 ●『福猫屋』三國青葉/著
- 『深い疲れをとる自律神経トリートメント』船水隆広/著 ●『終わった人』内館牧子/著 ●『カラフル』森絵都/作
- 『創造論者vs.無神論者』岡本亮輔/著 ●『日本陸軍の基礎知識』藤田昌雄/著
- 『野分』夏目漱石/著 ●『戦争の近現代史』阪正康/著 ●『こちら西川口駅前あい歯科医院事件簿』島田直樹/著
- 『宇宙の終わりに何が起ころのか』ケイティ・マック/著 ●『おどろきのスズメバチ』中村雅雄/著
- 『女たちのシベリア抑留』小柳ちひろ/著 ●『狐霊の檻』廣嶋玲子/作 ●『ペンギン』増井光子/監修
- 『岩波講座世界歴史』(全24巻)荒川正晴/編集委員 ●『月の立つ林で』青山美智子/著 ●『死人狩り』笹沢左保/著
- 『やさしい猫』中島京子/著 ●『はだしのゲン』中沢啓治/原作 ●『戦士の遺書』半藤一利/著
- 『保育士よちよち日記』大原綾希子/著 ●『ふるさと銀河線』高田郁/著 ●『鴎の碑』京極夏彦/著
- 『ローリングストーンズ完全版』和久井光司/著 ●『ぼくらは鉄道に乗って』三輪裕子/作
- 『チェルノブイリいのちの記録』菅谷昭/著 ●『三流シェフ』三國清三/著 ●『三匹のおっさん』有川浩/著
- 『ミン・スーが犯した幾千もの罪』トム・リン/著 ●『アーサー・ランサム全集』アーサー・ランサム/作
- 『わるじい秘剣帖』風野真知雄/著 ●『プリンス』真山仁/著 ●『神の小屋』ウィリアム・ポール・ヤング/著
- 『母の待つ里』浅田次郎/著 ●『イヴ&ローク』シリーズ J.D.ロブ/著 ●『地下鉄(メトロ)に乗って』浅田次郎/著
- 『鳩の撃退法 上・下』佐藤正午/著 ●『女性が共に、より羽ばたくために』ザ・ドリーム・コレクティブ/著
- 『同志少女よ、敵を撃て』逢坂冬馬/著 ●『自閉症の僕が跳びはねる理由』東田直樹/著
- 『崑ちゃん』大村崑/著 ●『ぬくもり』宮部みゆき/他著 ●『着物始末暦』シリーズ 中島要/著
- 『春に散る 上・下』沢木耕太郎/著 ●『医者に殺されない47の心得』近藤誠/著 ●『ハンチバック』市川沙央/著

紙面の関係で、お寄せ頂いたご感想や書名のすべては掲載できませんでした。
ご応募いただきました皆様、ありがとうございました！！



川口市立図書館 連絡先・開館時間

【中央図書館】

☎048(227)7611
住所: 川口市川口
1-1-1

平日
午前10時～午後9時
土・日・祝日
午前9時～午後6時

【前川図書館】

☎048(268)1616
住所: 川口市前川
3-4-27

【戸塚図書館】
☎048(297)3098
住所: 川口市戸塚東
3-7-1

【新郷図書館】

☎048(283)1265
住所: 川口市東本郷
1688

【鳩ヶ谷図書館】
☎048(285)3110
住所: 川口市坂下町
3-16-6

【横曽根図書館】

☎048(256)1005
住所: 川口市仲町
10-16

平日
午前10時～午後6時
土・日・祝日
午前9時～午後5時

【芝園分室】

☎048(269)2241
住所: 川口市芝園町
3-17

平日
午後1時～午後5時
土・日・祝日
午前10時～午後5時